

◆ 穴 99 個発見！ 何に使った？

遺跡からは、穴がたくさんみつかります。これまでに 99 個の穴がみつっていますが、場所や組合せ、形や大きさ、土の埋まり方、出土遺物など、さまざまな要素を手がかりにして、私たちは穴の用途を考えていきます。今回はそのなかのいくつかを紹介していきましょう。



◆ 竪穴建物跡群のはずれでみつかった深～い穴（落とし穴）

遺跡の東側を中心に、縄文時代と古代の^{たてあな}竪穴建物跡が7軒ありました。ところが、建物跡がない西側と南のはずれで、それぞれひとつずつ、直径が約1mの円形で、深さが約1.2mの深い穴がみつかりました。埋土からは、縄文土器の小さな破片が出土しました。穴の下の方は長方形で、底には直径3cm、深さ10～15cmの小さな穴が4か所あります。小さな穴の断面を見ると先がとがっていて、どうやら杭を打込んだ跡のようです。



深い落とし穴は、作業の安全に配慮して、半分に分けて調査する

このような特徴からこの穴は、底に杭（逆茂木^{さかもぎ}）を立てた縄文時代の動物をつかまえるための落とし穴と考えられます。しかし、落とし穴は、動物の習性に合わせて、複数仕掛ける場合が多いようなので、調査範囲外にも、多くの落とし穴が埋まっているのかもしれませんが。



落とし穴の底面に逆茂木を打込んだ穴が見える



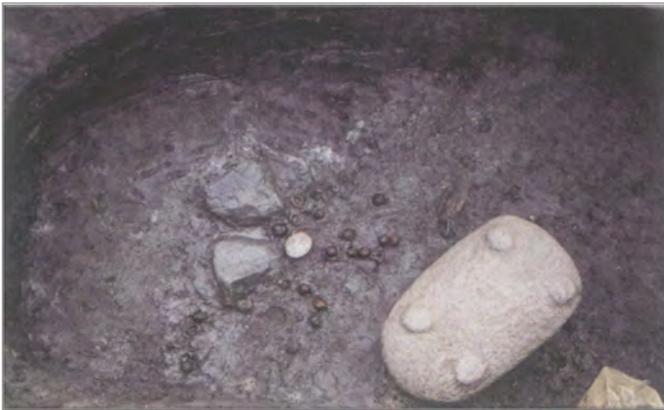
落とし穴の埋土から出土した約5,500年前の縄文土器片

◆ 竪穴建物跡の近くでみつかった大きな穴（貯蔵穴）^{ちよそうけつ}

縄文時代の竪穴建物跡の近くからは、直径約1mの円形で、深さ約60cmの、断面が袋状の穴がいくつかみついています。穴の中からは縄文土器の破片が出土しています。穴の大きさや形から、木の実などを保存した穴（貯蔵穴）と考えられます。中野市 栗林 遺跡^{くりばやし}では、貯蔵穴から、クルミや石皿が見つっています。



貯蔵穴と考えられる穴（径72cm 深さ60cm 容量245ℓ）



上：栗林遺跡の貯蔵穴
（長野埋文 2013『掘ってわかった信州の歴史』）



黄色矢印の穴の断面

◆ 穴を掘る道具

遺跡の発掘作業は、移植ごてや両刃鎌は言うに及ばず、おたまやスプーンなど、さまざまな道具が使われます。それでも狭くて深い穴を掘るのは一苦勞^{だせいせきふ}です。縄文時代の穴を掘る道具といえば、打製石斧^{だせいせきふ}です。縄文人は、打製石斧を棒の先にくくりつけ、硬い土を根気よく突いてほぐし、手のひらなどですくい上げ、穴を掘り進んでいたのでしょう。



左：1軒の竪穴建物跡から出土した打製石斧



うじがみ遺跡ニュース 第5号

（令和2年7月15日発行）

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4

TEL 026-293-5926

HP : <http://naganomaibun.or.jp/>

Email: info@naganomaibun.or.jp

発掘現場 : 080-9560-1354

（担当：村井大海・平林 彰）